

世話人会で同窓会規約の原案を作成するという宿題が与えられた。第1回世話人会は5月17日に開かれ、第1回卒業生の中 洋一郎君(丸善広島支店勤務)が中心となり、私が予め作っておいた規約案を叩き台として熱心な討論が交された。その結果、立派な同窓会規約第2次案が作成され、これが6月28日に予定されている第2回総合科学部同窓会設立準備会に提出される予定である。

第2回の設立準備会では、(1)同窓会規約第2次案の修正、(2)同窓会名簿の作成、(3)予算編成の問題、(4)同窓会役員を選出、などの議論がなされる筈である。同窓会を設立するには、まだ、幾多の問題が山積みされた感があるが、このような卒業生や在学生諸君の献身的な努力によって、同窓会設立の方向に向かって着実に歩み始めていることは間違いのない事実である。そこで、卒業生諸君だけでなく、現時点において、総合科学部や大学院に在学している

学生諸君にも訴えたい。この同窓会は、あくまでも諸君のためのものである。私達教職員は、この同窓会については、単にオブザーバー的な存在でしかない訳で、諸君自身の手で一致協力して立派なものを作り上げて欲しい。尚志会を初めとする広島大学の各種同窓会には決してみられない、愉快でユニークな同窓会を設立して欲しい。これが実現すれば、諸君が総合科学部を巣立って行った後にも、自分達の手で作上げた同窓会が素晴らしく成長して行くことを、この上なく嬉しく思うようになるだろう。さらに、欲を言えば、将来できるであろう諸君の子供達にも、広島大学総合科学部に入学させ、自分達と同じ同窓会のメンバーにしたいと願えるような同窓会にして欲しい。以上が、総合科学部同窓会の設立を切に願う者の1人としての結論である。(昭和55年度学生生活委員長、情報行動基礎研究・教授)

シリーズ・その4

大学研究所めぐり

タイ国チュラロンコン大学経済学部紹介

山下 彰一

イチに軍人、ニに先生

タイの子供たちに、将来何になりたいかと聞くと、1位軍人(13.7%)、2位先生(12.6%)、それから弁護士、医者と続くそうである(日本の総理府調べ)。タイでは、王家の血筋か金持ちでなければ、出世は難しい。例外は軍人であり、実力がモノをいうのは軍だけではないかと思われる。たえずクーデターが起っているタイ社会では、将軍になることが出世の近道であることを、子供ながらにすでに知っているわけである。もっとも、石を投げれば将軍に当たるといわれるほど、その数は多いが。



学部長夫妻と副学長、単者

こんな具合なので、男性エリートは、大卒、陸軍士官学校へはいってしまふ。よって、大学は、男女の教にアンバランスを来すことになる。実際、タイの大学は、やたら女子学生が目につき、名門チュラロンコン大学では、経済学部でさえ、女子学生が7割を占めている。文学部は、それこそ女の園である。女性優位は、なにも学園に限ったことではない。役所でも、数はいろいろによらず、部局長のポストに女性が沢山いて、またそのコワイことと云ったらない。結婚についても、婿入りが多く、家や財産は女性が守ることになっているらしい。それだけ責任感が強いわけである。この点は、なまけ者ですぐ蒸発してしまふ男どもとは、大いに違うところである。

チュラロンコン大学経済学部

さて、チュラロンコン大学は、タイでは最も古く、伝統と名声の高い国立の総合大学である。ほかに、法律と政経を看板とするタマサート大学(政・官界に多くの人材を出している)と、農業を中心とするカセサート大学(ともに国立大学)の2つがタイでは有名である。なお、チュラロンコン大学の名前は、

教育熱心であったチュラロンコン大王（ラーマ5世、1868～1910）が、土地を大学に提供したことに由来すると聞いている。

経済学部は、この名門校にあって1番新しい学部で、設置は1957年である。当時の政治、商学の両学部になされていた経済学関係の科目を集めて出来たもので、人事問題などでは、いまだに両派の対立があるとのこと、いずれも同じである。経済学部は、人的には、その後、若手研究者をどんどん補充して、現在、フルタイムの教員数は70人、うち20人が海外留学中である。平均年齢は、30才ぐらいと若い。アメリカでdegreeを取った者が中心（Ph.D.取得者は15人）で、カリキュラムの組み方や授業内容もアメリカン・スタイルといったところである。

設置当初の経済学部は、経済理論、経済発展論、国際経済学、金融論の4つの学科があったが、1972年には数量経済学科が新設され、現在5つの学科から成り立っている。学生数は、1学年の定員100～125人（修士課程は同15人程度）であるが、実際の学生数は、途中で海外留学や経済的理由によるドロップ・アウトがあり、段々少なくなっていく。最低必要単位数は、130単位で、うち必須科目は58単位（20科目）である。必須には、ミクロ、マクロ経済学などの基礎理論4科目のほか、数学2、統



チュラカンコ大学経済学部

計学2、英語6、タイ経済、開発論、国際経済学、金融論各1科目などが含まれている。

最近の動きとしては、若手の男性教員が、政府の諮問委員会などに積極的に参加し、国の経済政策にタッチすることが多くなったことである。きっかけは大学の給与が安いという経済的理由もあるが、むしろお抱え外人顧問ではなく自国の頭脳を利用するようになった政府の方針に注目したい。現実の経済政策に学者が参画することは、日本の高度経済成長期に果たした経済学者の役割に照してみても、その意義は大きいし、期待したいところである。

（社会文化研究・助教授）

〔 学 部 の 記 録 〕

人 事 異 動

<採 用>

（教官の部）

- 4. 1 小谷 一郎（中国語 講師）
- 8. 1 桜井 直樹（自然環境研究 助手）

（事務の部）

- 4. 1 風呂光律子（人事係）
- 岡本 和子（外国語）
- 木山 香（自然環境研究）
- 鳥養 陽子（情報行動基礎研究）
- 4. 10 会沢 邦夫（情報行動基礎研究）
- 4. 15 田代佳世子（情報行動基礎研究）
- 6. 5 洲崎 敏伸（自然環境研究）
- 7. 16 八幡 順子（自然環境研究）
- 岡田 朋子（自然環境研究）

7. 26 石川 栄治（アジア研究）

10. 15 山田 康治（自然環境研究）

<昇 任>

（教官の部）

- 4. 1 齊藤 忠資（ドイツ語 助教授）
- 総合科学部講師より
- 米田 巖（英米研究 助教授）
- 総合科学部講師より
- 原 正幸（比較文化研究 助教授）
- 総合科学部講師より
- 間田 穆（社会文化研究 助教授）
- 総合科学部講師より
- 吉田 敏男（基礎科学研究 助教授）

- 総合科学部講師より
 堀 信行(自然環境研究 助教授)
 総合科学部講師より
 村瀬 延哉(フランス語 助教授)
 総合科学部講師より
 9. 1 小南 思郎(自然環境研究 助教授)
 総合科学部助手より
 10. 1 小林 文男(アジア研究 教授)
 総合科学部助教授より
 福嶋 正純(ヨーロッパ研究 教授)
 総合科学部助教授より
 大石 俊一(英米研究 教授)
 総合科学部助教授より
 舟場 正富(社会文化研究 教授)
 総合科学部助教授より
 熊丸 尚宏(自然環境研究 教授)
 総合科学部助教授より
 藤本 黎時(英語 教授)
 総合科学部助教授より
 上領 達之(情報行動基礎研究助教授)
 京都大学医学部講師より

(事務の部)

5. 1 本田 幸三(学務第二係 主任)
 総合科学部学務第二係より

<配置換>

(教官の部)

4. 1 松下 亮(ドイツ語 教授)
 九州大学教養部教授より
 田中 久男(英語 助教授)
 九州工業大学工学部助教授より
 湯崎 稔(社会文化研究 助教授)
 広島大学原爆放射能医学
 研究所助教授より

(事務の部)

4. 1 田部 実(事務長補佐)
 工学部事務長補佐へ
 柚木 隆(厚生補導係長)
 工学部学務第二係長へ
 松浦 末男(学務第一係)
 理学部学部学生係へ
 河井 孝之(学務第二係)
 学校教育学部学務係へ
 大谷 浩一(用度係)
 庶務部人事課任用係へ

- 中津 繁(事務長補佐)
 生物生産学部事務長補佐
 より
 村中 博(厚生補導係長)
 工学部厚生補導係長より
 佐藤 民男(用度係)
 生物生産学部学務係より
 清水由美子(経理係)
 理学部数学教室より
 田辺 啓次(学務第二係)
 歯学部庶務係より
 松尾 宗弘(学務第一係)
 工学部学務第一係より
 5. 1 谷川 貴史(人事係)
 医学部庶務係へ
 伊藤 正浩(用度係)
 工学部厚生補導係へ
 金本 雅昭(用度係)
 歯学会会計係へ
 岡崎 知(学務第二係)
 理学部大学院学生係へ
 中村 幸夫(学務第二係)
 医学部附属病院医事課外
 来係へ
 島田 文隆(厚生補導係)
 医学部学務係へ
 上田 隆文(人事係)
 文学部学務係より
 市場 稔(用度係)
 歯学部学務係より
 山崎 宏己(用度係)
 経理部主計課予算第二係
 より
 本田 幸三(学務第二係)
 学校教育学部庶務係より
 宮内 信博(学務第二係)
 庶務部人事課給与第二係
 より
 下田 保弘(厚生補導係)
 歯学部附属病院保険係より
 10. 1 木村 俊雄(事務長補佐)
 工学部事務長補佐へ
 大番 卓司(庶務係長)
 庶務部庶務課学事係長へ
 古寺 一郎(学務第一係)

西条共同研修センター主任へ

赤松 久吉(事務長補佐)

経理部管財課課長補佐より

伊藤 光夫(庶務係長)

工学部人事係長より

井上 純(学務第一係)

学生部学生課学生第二係より

<停年退官>

4. 2 山口 鉄雄(英語 教授)

余川 文彦(ドイツ語 教授)

<辞職>

6. 2 越智 厚江(自然環境研究)

7. 15 高尾千衣子(自然環境研究)

8. 8 鳥養 陽子(情報行動基礎研究)

<転任> —

4. 1 中川 正之(中国語 助教授)

神戸大学教養部へ

10. 1 伊東 保(英語 講師)

新潟大学教育学部講師へ

<改姓>

6. 26 野田寿美子(保健体育 助手)

旧姓 小倉

<部内配置換>

4. 1 増田 直子(庶務係)用度係より

石田 和子(用度係)人事係より

小川 京(厚生補導係)庶務係より

山下 裕子(自然環境研究)厚生補導係より

7. 1 伊藤 弘之(経理係)

文部技官より文部事務官へ

↓(用度係換へ)

海外渡航者

(出張および研修)

塩谷 実(情報行動基礎研究 教授)

渡航先 エジプト

目的 統計学・計算機科学および社会研究に関する第5回国際会議出席

期間 55. 3. 27~55. 4. 5

芝田 進午(社会文化研究 教授)

渡航先 インド

目的 「アジアの将来」についてのシンポジウム出席

期間 55. 3. 9~55. 3. 17

坪田 博行(自然環境研究 教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 北西部北太平洋の海水混合の化学的研究

期間 55. 4. 25~55. 6. 18

早瀬 光司(自然環境研究 助手)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 北西部北太平洋の海水混合の化学的研究

期間 55. 4. 25~55. 6. 18

志邨 晃佑(英米研究 教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 第73回アメリカ歴史学者協会年次大会出席及び資料調査

期間 55. 4. 7~55. 4. 21

三木 英夫(フランス語 教授)

渡航先 アメリカ合衆国、カナダ、連合王国、フランス

目的 "フランス象徴詩派の言語と文学"に関する研究

期間 55. 5. 20~55. 7. 19

中根 周歩(自然環境研究 助手)

渡航先 大韓民国

目的 韓国漢江水系の栄養塩類、重金属動態調査

期間 55. 6. 3~55. 7. 4

安田 喜憲(自然環境研究 助手)

渡航先 ソヴィエト連邦、スウェーデン、オランダ、連合王国、イタリア、フランス

目的 第5回国際花粉学会及び第26回万国地質学会会議出席並びに資料収集

期間 55. 6. 13~55. 7. 30

- 今井 光規(英語 助教授)
 渡航先 連合王国、フランス、デンマーク
 目的 英語学、英語教育に関する研究及び英語史研究に必要なデンマーク語夏季講習会参加
 期間 55. 7. 12~55. 9. 5
- 嶋 陸奥彦(アジア研究 講師)
 渡航先 大韓民国
 目的 韓国農村の社会人類学的研究(現地調査)
 期間 55. 7. 15~55. 10. 15
- 清水 昭俊(社会文化研究 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国、グアム島、ボナペ島
 目的 ミクロネシア、カロリン群島における島興間の文化交渉に関する文化人類学的調査研究
 期間 55. 7. 28~56. 2. 4
- 崎山 理(比較文化研究 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国、グアム島、西カロリン群島
 目的 ミクロネシア、西カロリン群島における島興間の文化交渉に関する文化人類学的調査
 期間 55. 8. 3~55. 12. 18
- 栃木 省二(自然環境研究 教授)
 渡航先 フランス、スイス、オーストリア、イタリア、連合王国
 目的 砂防国際会議出席及び砂防技術の交流
 期間 55. 8. 29~55. 9. 18
- 山本 雅(英語 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 ナサニエル・ホーソンの進歩思想に関する研究
 期間 55. 9. 2~56. 8. 31
- 兼田 正男(情報行動基礎研究 教授)
 渡航先 大韓民国
 目的 ソウル大学及び科学技術研究所にて遺伝情報と細胞生物学に関する研究打合せ
 期間 55. 8. 4~55. 8. 9
- 湯崎 稔(社会文化研究 助教授)
 渡航先 スウェーデン、ドイツ連邦共和国、連合王国
 目的 国際社会学会「家族と災害」に関する第18回国際家族研究セミナーへの出
- 広島大学総合科学部報『飛翔』№.16
 席並びに研究情報交流
 期間 55. 6. 13~55. 6. 30
- 小林 惇(人間行動研究 教授)
 渡航先 ハンガリー、オーストリア、ドイツ連邦共和国
 目的 第28回国際生理科学会議並びに衛星シンポジウム出席
 期間 55. 7. 5~55. 7. 27
- 大林 康二(基礎科学研究 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 ニューヨーク州立大学において「抵抗相関分析法」の研究および「超分子および非平衡系への散乱技術の応用」の国際研究集会出席
 期間 55. 7. 17~55. 8. 18
- 安藤 正昭(人間行動研究 助手)
 渡航先 ハンガリー、フランス
 目的 第28回国際生理科学会議出席
 期間 55. 7. 11~55. 7. 26
- 小島 基(ドイツ語 講師)
 渡航先 ドイツ連邦共和国、ドイツ民主共和国
 目的 ドイツ文学・ドイツ語関係資料収集並びに外国語教育者との研究情報交流
 期間 55. 7. 19~55. 9. 14
- 渡部 三雄(基礎科学研究 助教授)
 渡航先 連合王国、フランス
 目的 第4回液体および非晶質金属に関する国際会議出席およびイーストアングリア大学における液体金属の理論の研究
 期間 55. 7. 3~55. 9. 7
- 佐竹 昭(日本研究 助手)
 渡航先 中華人民共和国
 目的 シルクロードの歴史を研究するため
 期間 55. 7. 17~55. 7. 31
- 赤堀 興造(自然環境研究 助手)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 チトクロム酸化酵素モデル化合物の合成と性質に関する研究
 期間 55. 7. 24~56. 7. 23
- 林 七雄(自然環境研究 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 植物中の抗癌作用物質の分離構造決定ならびに構造と活性の相関に関する研究
 期間 55. 8. 1~56. 7. 31

渡辺 則文(日本研究 教授)

渡航先 ルーマニア、ユーゴスラヴィア、ブルガリア、トルコ、ギリシャ、ドイツ連邦共和国

目的 第15回国際歴史学会議出席及び情報交換、資料収集

期間 55. 8. 8~55. 8. 25

重中 義信(情報行動基礎研究 教授)

渡航先 オランダ、ドイツ連邦共和国、フランス

目的 第7回欧州電子顕微鏡会議及び第2回国際細胞生物学会議出席のため

期間 55. 8. 22~55. 9. 8

水上 孝一(情報行動基礎研究 教授)

渡航先 ルーマニア、ドイツ連邦共和国、ポー

広島大学総合科学部報『飛翔』№16

ランド、タイ

目的 ルーマニア科学技術創造研究所及びポーランドシステム研究所との共同研究並びに第5回オペレーションズリサーチシンポジウム出席及びタイ国立データプロセスセンターでの研究情報交流

期間 55. 8. 23~55. 10. 16

菊地 邦雄(保健体育 助教授)

渡航先 中華人民共和国

目的 学術交流のための講演と資料調査

期間 55. 8. 20~55. 8. 28

陣崎 克博(英米研究 教授)

渡航先 大韓民国

目的 第15回国際アメリカ研究セミナー出席

期間 55. 9. 23~55. 9. 28

——編集後記——

旅行く車窓にうつる休耕田や、山間へき地の廃屋のたゞずまいは、人の心を痛ましめる。だからこそ、若者のUターンや、若い老夫婦のふるさと居住が、世の話題となるのであろう。

本紙の新生編集委員の名簿をながめながら、ふと、「三ちゃん農業」、「休耕田」、「廃屋」などを連想した。たぶん、中堅の働き盛りの二年生の顔ぶれが、完全にそこから欠落しているからであろう。

だが、数少ない三・四年生と、新前一年生の諸君が、けんめいに「ふるさと」を死守してくれた。ここに『「飛翔」第16号』を遅ればせながらお届けできるのも、これら若者たちの責任感と実行力と、また、座談会に快よく御参加下さったり、また、お忙しい合間を縫って御投稿下さった教職員のかたがたの、さわやかな御協力のたまものである。ここに深謝したい。

なるほど、出来上った物は、プロの紙面の風格や、名人芸の味わいにはほど遠い。だが、肩ひじ張って「学生参加」を唱呼するかわりに、未熟ながらも、地味に、「学生参加」の道を歩む総科生が育っていることを認めていたぶきたい。

無責任な沈黙と呪詛を払いのけて、新鋭の気概と歓声をこだまさせる「ふるさと」を築くためには、まだまだ、読者の大いなる参加と声援が、いや、大叫声さえも必要である。切に御精読を乞う次第であ

る。

(広報委員長 田村)

この『飛翔』第16号は、当初7月に発行予定でしたが、原稿依頼の不手際、また、原稿の割付けの際において、学生編集委員内で、連絡ミスがあり、そのまま、試験突入という事で、発行が、4カ月も遅れてしまいました。

原稿依頼をお願い致しました諸先生方、又、お待たせしました読者の方々、どうも申し訳ございませんでした。

また、色々心配下さった広報関係の先生方、事務の方、どうも心配をおかけし申し訳ありません。以後、こういう事のない様、また、さらに良い『飛翔』を目指す為努力致しますので、よろしく御指導願います。

尚、今回のアンケート調査では一部、コンピューターを利用してみる等、テクニカルな面で、また、学内の生の声を出そうと努力したつもりですが、何分人手不足です。『飛翔』の仕事をやってみようという学生の方の協力をお待ちします。

最後に一回生の編集委員の諸君、初仕事御苦労さまでした。

(文責 53生 中上 京治)